研究の概要

今年度の研究テーマは、「主体的・対話的で深い学びの実現～各学年の実態に即した指導の工夫～」である。本校では５年間、研究の主題を「主体的・対話的で深い学び」として、その実現のために、校内研究の課題を踏まえながら、次に研究するべきことを定め、副主題を設定してきた。その都度、上がった成果の積み重ねもあり、どの教師も指導の工夫を取り入れられるようになってきたため、今年度は、学年や学級の児童の実態応じて、これまで研究してきた内容を自由に選び、指導の工夫に生かすこととした。これまでの研究の重点である副主題と今年度の研究の関係は以下の通りである。

主体的・対話的で深い学びの実現			
令和３年度 協働的な学び	令和４年度 振り返り・表現	令和５年度 振り返りと評価	令和６年度 教科横断的な学び
令和７年度 各学年の実態に即した指導			

次に、これまでの研究の成果について述べる。「主体的で対話的で深い学び」を研究主題として、副主題を設定しながら研究を５年間続けたことで、児童にも着実に思考・判断・表現する力が付き、解決困難な課題に取り組むことや、多様な他者と協働して取り組むことに価値を見出し、「楽しい」と感じる学習姿勢が付くことがはっきりした。成果をまとめると以下のようになる。

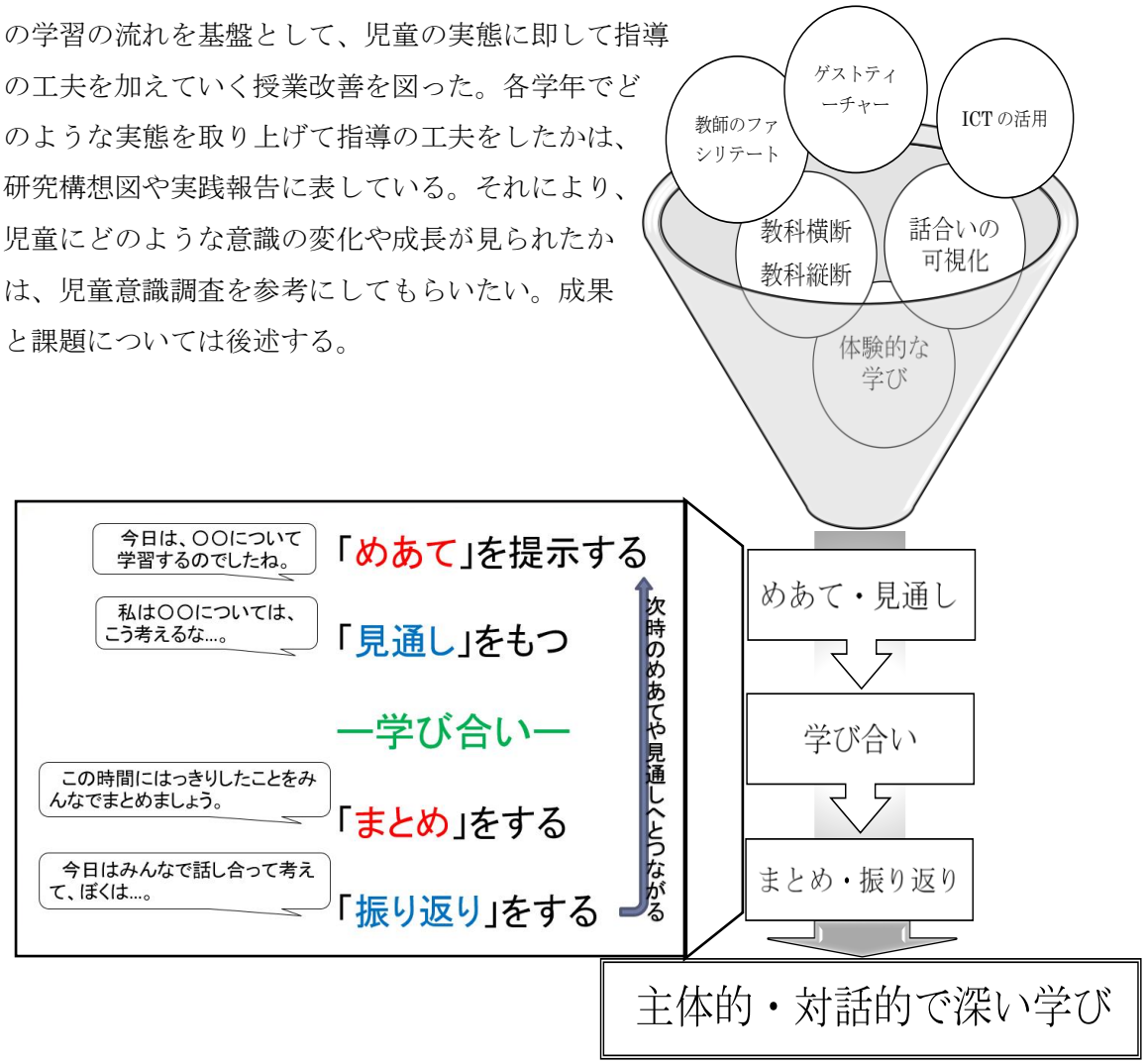
①「めあて」の明確化により、教師が導入の工夫や話合いのツールの活用をするようになり、振り返りを見取りやすくなった。

②「めあて」と「見通し」、「まとめ」と「振り返り」を区別し、個々の考えをもたせたことと、協働的な学び合いを充実させたことで、児童に納得解や最適解を見出す力が付いた。

③児童の見通しや振り返りが見取れるようになったことで、教師が「思考を深めるための問い返し」「考えを引き出す問い掛け」を更に工夫するようになった。

④教科横断的（縦断的）な視点をもって指導することと、地域を核にした体験活動を充実させたことで、児童の主体性や思考を高めるようになった。

ここから見えてくるのは、「めあて」を捉えて「見通し」をもち、「学び合い」を通してはっきりしたことを「まとめ」、自分の学びを「振り返る」という一単位時間の学習の流れを定着させたことが、教師の授業改善を進め、指導力を向上させたということである。本校で

は、「めあて」と「まとめ」、「見通し」と「振り返り」は対となるような学習活動の展開を繰り返し研究し、授業改善を行ってきた。そのことで、教師が、学習のねらいから逸れずに授業を展開することや、児童主体の学びにすること、児童が「正解」だけを求めずに、他者の考えを広く受け入れ、考えの変容や深まりを実感するようになることや、振り返りから児童個々の考えや成長を教師が見取ることなどができるようになったと言える。これが学習指導の基盤となったことで、更に学習にゲストティーチャーや具体物を使ったり外に出たりする体験活動、板書や話合いにシンキングツールやホワイトボードなどを用いる思考の視覚化、ICT によるコミュニケーションツールの導入などが工夫として加わり、教科横断的な視点をもった指導、児童への言葉掛けや児童間の複数の話合いを関連付けるといった働き掛け方などの指導力の向上につながったと考えられる。このようにして、児童の「主体的・対話的で深い学び」を追究してきたのが、本校の研究である。 図でまとめると下のようになる。

今年度の研究はこのように、「ねらい」・「見通し」、「学び合い」、「まとめ」・「振り返り」の学習の流れを基盤として、児童の実態に即して指導の工夫を加えていく授業改善を図った。各学年でどのような実態を取り上げて指導の工夫をしたかは、研究構想図や実践報告に表している。それにより、児童にどのような意識の変化や成長が見られたかは、児童意識調査を参考にしてもらいたい。成果と課題については後述する。